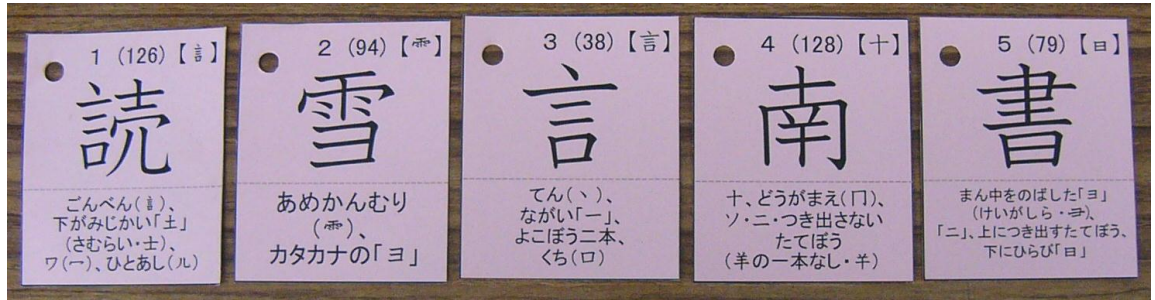


サポートツール実証データ

実証研究実施者	村井敏宏
区分 1	国語
区分 2	書く
領域	漢字に興味を持つ
困難	漢字に興味を持ちにくい
サポートツール	「漢字カード 小学校編」 点字学習を支援する会
学年	小学校2年生・3年生、各2クラス
試用期間	2学期（9月～12月、4ヶ月間）
使用場所	通常学級
使用上の注意、条件	国語の漢字指導
使用状況 ＜授業の構成等＞	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が該当学年の漢字カード一式を持ち、漢字指導の際に使用した。 ・新出漢字の学習の際に、漢字の部品ごとにチョークの色を変えて書き、漢字の構成を意識させる。 (読→ごんべん、下がみじかい「土」、ワ、ひとあし) ・部品の名前を唱えながら空書をさせる。 ・練習帳に書く際にも、部品を意識させながら練習させる。
＜子どもの様子＞	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の足し算のようで、楽しく取り組めた。 ・取り組むにつれ、子どもたち自身が部品を探すようになっていった。 ・後半には、子どもたち自身が考えたものを発表させた。 ・漢字を形で覚えるよりも、細かい所まで頭に残りやすいと感じた。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の番号は光村図書の国語教科書の順にふられているので、他社教科書では並べ替えが必要になる。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を形だけでなく、言語化していけるために、漢字を覚える手掛かりが増える。 ・パズルのように部品を組み合わせていくので、子どもが意欲的・自発的に漢字を覚えるようになる。 ・漢字の苦手な子どもへの個別支援にも使える。 ・1年生の漢字は、単純なものが多いため、漢字カードを使って細かく分けるより、成り立ちなどから教える方が指導しやすい。 ・高学年では、家庭学習で漢字を覚えるため、個別にカードを持たさないと使いにくい。 ・漢字のタイトル（読み方：読→どくしょのどく、よ_む）を活用すると、同音異字の増える4年生以降の指導に有効である。

サポート・ツールの概要

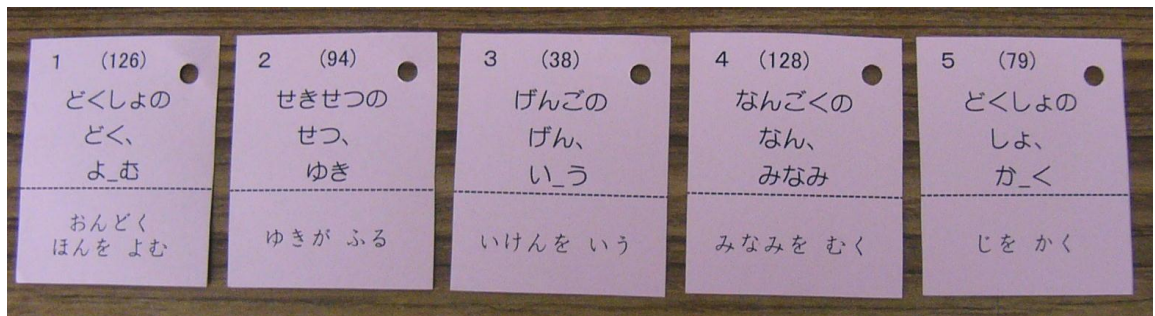
・漢字カード（表）－2年生用



*漢字の下に、漢字を構成する部品名が筆順通りに書いてある。

*上の番号は光村の教科書順、()内は音読みの50音順。

・漢字カード（裏）－2年生用



*漢字のタイトル（上）と用例（下）

